



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『エンジョイロータリー』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T

『夢をかたちに』

～ Make Dreams Real～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2008年11月10日

No. 14



平成20年10月6日

卓話 『日本の学生ゴルフ界について』

日本大学 ゴルフ部監督

和田 光司 様



今日は学生ゴルフのお話をさせていただきます。学生ゴルフは学生ゴルフ連盟が主管しております。現在は関東、中部、関西、中四国、九州が連合体になって組織されています。この連盟もかなり衰退しております。50年代の初め8千名から9千名ぐらい登録されていましたが、昨年は2千名ちょっと。関東は千人を切っています。ただレベルはどんどん上がっています。団体戦は全日本大学対抗戦が年に1回、朝日新聞社が主催する信夫杯、春と秋のリーグ戦などが主なもの。個人戦は各地区の学生選手権、日本学生選手権、朝日杯、文部科学大臣杯がございます。皆ゴルフがうまいかっていうと、AからCブロックまではいいスコア出すんですけど、DからFブロックでは100打つ学生もいます。本当に一握りの、それぞれ小学、中学、高校、大学と親に付き添われて毎日一生懸命練習する子ばかりという中で、一部のチームが争っているのが実態です。

学生ゴルフ連盟の歴史は比較的古くて、昭和10年ぐらいに慶応と早稲田、明治の3校が発起校になり、その後すぐ法政が入って関東学生連盟ができました。その間に関西学生ゴルフ連盟ができて東西対抗やったりしていたのですが、戦争で昭和15年に解散命令を受けます。戦後は関西が昭和26年、関東は28年が連盟復活の年です。年譜的には30年に信夫杯が、39年には全国大学リーグ戦が始まり、第1回目、第2回目は慶応大学が優勝。40年に日本大学が勝ってから33年間は日大の天下です。その間に負けたのは全国大学対抗戦で2回、信夫杯でも2回だけ。すさまじい日大王国の時代でした。ゴルフは大学ゴルフ界の状況がそのままプロゴルフ界にトレースされるとご理解いただけたらいいと思います。日大の時代が長く続きましたが、平成9年に最後に勝ってから10年ぐらいは暗黒の時代になり

ます。東北福祉大学が台頭してくるんですね。

今、学生ゴルフ界も危機に瀕しています。女子などは宮里藍効果で、皆、高校卒業でプロ行っちゃうんですね。男子の方も石川遼が優勝したために大学へ進学する子が少なくなっている。学生ゴルフ



を盛り上げるため、いろんな対策を考えております。例えば今、日本学生選手権獲ると、翌年だけプロの3次試験まで免除なんです。3年生で獲ると4年生やめて来いというのと一緒なわけで、プロゴルフ協会と、もう少しいりレーションができればと考えています。高校生の気質も大分変わっています。笑い話ですけど、日本ジュニア選手権の霞ヶ関カンツリー倶楽部の食堂で、うちの子は一体どのくらい稼げるかというのが親御さんの話題の中心です。大学のお誘いに行っても、ああ日大さんですか、ところで条件はなんですかという話になる。私どもプロではありませんから、せいぜい特待の制度を出して差上げるとか、そんなようなことです。

今、考えているのは、教育の一環としてのゴルフ部にもう一度立ち返ること。激しい競争に打ち勝てるような練習方法を導入して、もっと高いレベルを目指すこと。それとせっかく大学に入るわけですから、4年間やったら人生の選択肢が広がる方が本来だと思うんです。プロになるしかないのではなく、地域社会、経済界、ゴルフ界で役立つ人材を育成したいと思っています。日本大学はおかげさまでまた復活を始め、今年日本学生選手権に男女ともアベック優勝しました。学生ゴルフもそういう視点でご覧になると面白いと思います。ありがとうございました。